

Once upon a time in Utsunomiya.

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより

第73回

榎金商店記念絵葉書

宇都宮市街の一部。
左上に大銀杏が見える



この絵葉書は、現在の「御菓子司 榎金(マスキン)の前身」菓子砂糖器械問屋榎金商店」が、「第十一回全国料理飲食業同盟大会」を記念して発行した物である。はがき表面の形状から、明治四十年代から大正の初期と思われる、印刷は、「旭町老萩原印行」とあった。榎金の店舗自体が写っている絵葉書はないが、宇都宮の街並み、名所、旧跡などに店名をすり込んで配った物と思われる。

榎金の創業は、一八七二(明治五)年。「榎金の歴史」によれ

ば、初代斎藤金次郎が官島町で創業し、その後相生町(現在の馬場通り)で間口二間半の小さな店を開店したのが始まりという。一八九八(明治三十二)年十二月発行の『宇都宮繁昌記』に掲載された広告には、大書きされた菓子販売所の文字の下に、生菓子、干瓢砂糖漬など商品の一覧が列記され、宇都宮市相生町榎屋金次郎の店名が記され興味深い。また、『宇都宮市史』には、「大八車で東京まで金平糖やビスケットを仕入れに行った(斎藤要之助談)」と、創業当時のエピソードが記されている。

榎金のいわれは、屋号の枡屋と名前の金次郎が、時とともに「榎金(マスキン)」となったもの。前述した絵葉書の「菓子砂糖器械問屋榎金商店」は、たぶんその関連会社だったものと考えられる。

一九三六(昭和十一年)七月発行の『昭和十一年』ころの宇都宮の、主要菓子商店一覧には、「榎金菓子店」として次のように紹介されている。「県下代表の菓子店であることは今さらなどを要せぬ、店主は齋藤金次郎氏に

て一方に斎藤興行部を擁し宮市の歓楽境大馬場を支配せる巨人、従つて店勢いよいよ栄えゆ、本年同樓上に喫茶部を設置し現代的営業をなしつつあり」

見慣れたお馴染みの絵葉書の風景だが、「榎金商店」の文字がはいっているだけで、別の物に見えるから不思議である。



宇都宮公園王座記念碑(御本丸公園)



桜並木の枡木照庁